

*** 旧測光部にあった2個目の直視分光器を収蔵**

アーカイブ室新聞 127号で東京天文台時代の旧測光部の直視分光器(DIRECT VISION SPECTROSCOPE)(写真1)を収蔵したことを書いた。これは旧測光部の田中京子さんから託されたものであったが、今回は2009年3月で定年退職される旧測光部の宮下暁彦氏から託されたものである。



写真1 前回の島津製の直視分光器

今回の直視分光器(写真2)はTOKO No. 185007というシリアルナンバーが付いている。このTOKO製のものの方が、少しグレードが高いようだ。スペクトル幅を半分にして波長のメモリが挿入できるようになっている。



写真2 TOKO製の直視分光器

この直視分光器もスリット幅の調節が出来る。島津製のものより少し分解能はよさそうだ。眼で見るとブラウンフォーファー線も見えるのだが、写真に撮ることは非常に難しい。写真3が太陽光（自然光）のスペクトル、写真4が蛍光灯のスペクトルである。

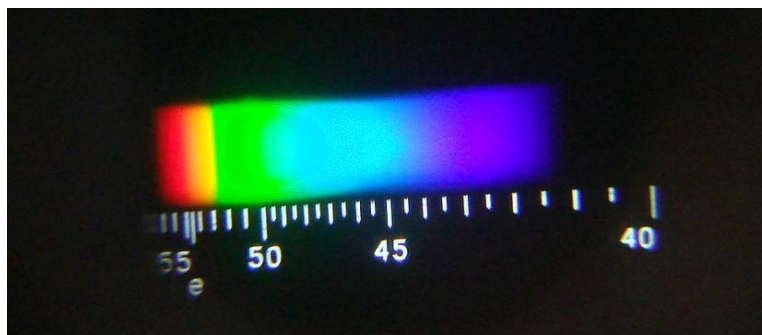


写真3 自然光のスペクトル

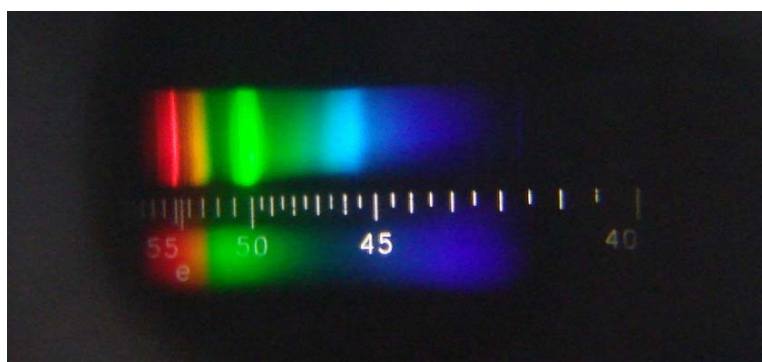


写真4 蛍光灯のスペクトル

写真5が外観と皮ケースである。



写真5 外観と皮ケース

写真6が、波長の目盛の挿入のためのつまみである。2段ノブになっており、挿入とクランプネジになっている。

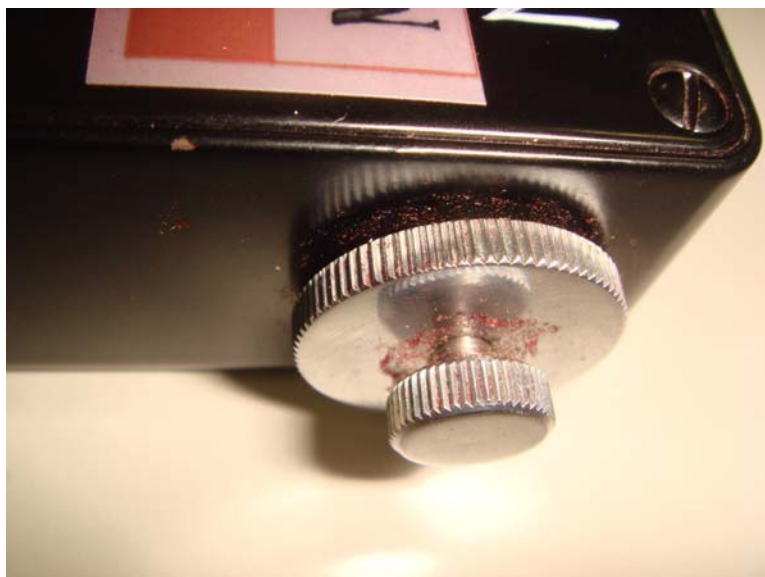


写真6 2段になった波長目盛挿入ネジ

写真7のように、本体の下にもう1本の筒が入っているが、その部品はない。筒の底には鏡が入っている。何のためのものかは分からない。



写真7 本体脇に奥に鏡が付いた筒がある